



函南町の子どもたち

函南町教育委員会

令和6年4月に実施した「全国学力・学習状況調査」の函南町立小中学校の調査結果について、概要をお知らせします。本調査は小学校6年生、中学校3年生を対象に実施し、今年度は「国語」と「算数・数学」の2教科について調査しました。また、生活や学習のようすに関する「児童生徒質問調査」については、今回初めて全面的に一人一台端末を用いたオンラインによる回答方式で実施されました。

教科に対する調査結果や児童生徒質問調査から、函南町の子どもたちのよいところや今後の課題についてまとめました。本町の調査結果についてお知らせすることにより、保護者の皆様をはじめとする家庭・地域・学校が連携して、子供たちの生活や学習状況を改善していきたいと考えています。

また、本調査から読み取れることは、児童生徒の学力の一部であり、学校の教育活動の一側面であることをご承知おきください。

教科に対する 調査結果から

全国の平均と比べたときの差
「◎」…高い 「○」…やや高い 「□」…ほぼ同じ
「△」…やや低い 「▲」…低い



【小学校：国語】

全体正答率		□
知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	○
	(2) 情報の扱い方に関する事項	□
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	□
思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	△
	B 書くこと	△
	C 読むこと	△

【小学校：算数】

全体正答率		△
A	数と計算	△
B	図形	□
C	測定	△
C	変化と関係	△
D	データの活用	△

◇小学校国語では、全体正答率は全国平均とほぼ同じという結果でした。「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域で、全国平均をやや下回りました。

◇小学校算数では、全体正答率が全国平均をやや下回っているという結果でした。全国平均とほぼ同じ結果の「図形」以外の各領域において、全国平均をやや下回りました。

【中学校：国語】

全体正答率		△
知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	△
	(2) 情報の扱い方に関する事項	△
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	△
思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	○
	B 書くこと	□
	C 読むこと	□

【中学校：数学】

全体正答率		○
A	数と式	○
B	図形	○
C	関数	□
D	データの活用	○

◇中学校国語では、全体正答率が全国平均をやや下回りました。「話すこと・聞くこと」の領域で全国平均をやや上回る一方で、「知識及び技能」に関わる各領域でやや下回る結果になりました。

◇中学校数学では、全体正答率が全国をやや上回りました。「数と式」「図形」「データの活用」の各領域で、全国平均をやや上回る結果になりました。

国語（小学校）

※令和6年度全国学力・学習状況調査問題より抜粋。紙面の都合上、調査問題の一部を変更、修正しています。

◇◇できているところ◇◇（全国との比較）

- 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと
- 文の中における主語と述語との関係を捉えること

★★今後伸ばしたいところ★★

資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること

深緑小学校 村木さん 海風小学校 和田さん

② はじめまして。深緑小学校の村木です。今日は、とても楽しみにしていました。

① はじめまして。海風小学校の和田です。よろしくお願いします。

⑥ よく分かりました。おもしろそうですね。

⑦ そうなんです。先月の読書イベントでは、図書委員がさまざまな分野から本を選び、本の内容からクイズを出題してくれました。これが、実際に出题されたクイズが書かれたカードです。私も参加することで、科学の本に興味をもつことができました。

オンライン交流の様子の一部

【小学校】①二

和田さんは、「和田さんのメモ」を生かして、村木さんとオンラインで交流しました。次の「オンライン交流の様子の一部」をよく読んで、あとの問いに答えましょう。

（2）和田さんは、村木さんの発言⑥を受けて、発言⑦のように話しました。和田さんの話し方の工夫として最も適切なものを、次の1から4までのの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

【正答】2

4	3	2	1
相手が興味をもっていないことに気づき、自分の体験を加えて話した。	相手が興味をもっていないことに気づき、言葉の意味を説明しながら話した。	相手が興味をもっていることに気づき、用意していた実物を示しながら話した。	相手が興味をもっていることに気づき、相手の言葉を引用して話した。

「1」を回答する児童が一定数みられました。発言⑥の言葉や【和田さんに届いたメールの内容】を「引用して話している」と捉えた児童や、「そうなんです。」と相手の話を受け止めている状況を「引用している」と判断したと考えられます。



POINT

- ◇相手や目的を一層意識し、どのような資料を用意すればよいかを考える。
- ◇目的や意図に応じて資料の順番を変えたり、適切な時間や機会での資料の提示の仕方について検討したりする。

算 数

※令和6年度全国学力・学習状況調査問題より抜粋。紙面の都合上、調査問題の一部を変更、修正しています。

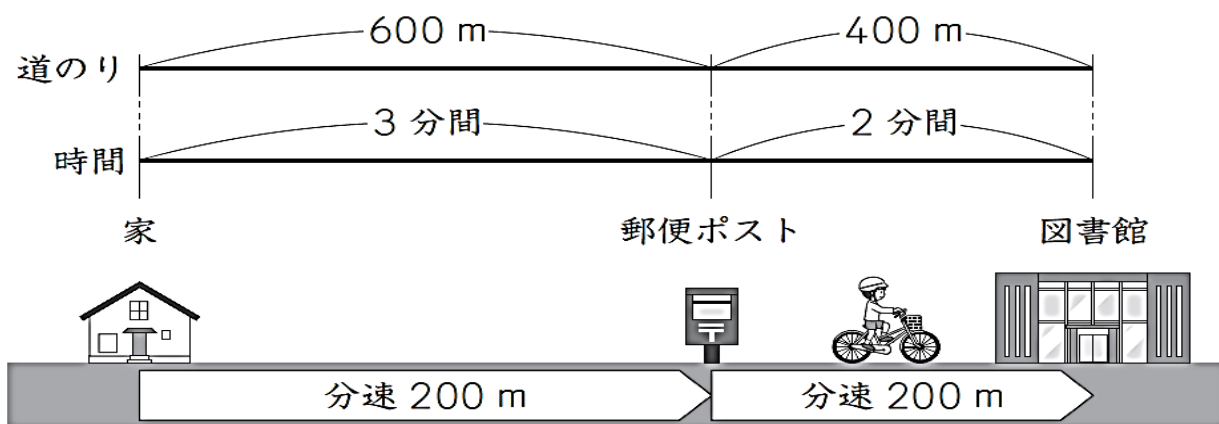
◇◇できているところ◇◇（全国との比較）

- 直方体の見取図について理解し、かくこと
- 円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ること

★★今後伸ばしたいところ★★

速さの意味について理解する力

【小学校】4（4） たけるさんは自転車で、家から郵便ポストの前を通って図書館まで行きました。
家から図書館まで、5 分間かかりました。



家から郵便ポストまでは、道のりは 600 m で、3 分間かかり、速さは分速 200 m でした。
郵便ポストから図書館までは、道のりは 400 m で、2 分間かかり、速さは分速 200 m でした。
家から図書館までの自転車の速さは、分速何 m ですか。答えを書きましょう。

図が与えられていましたが、「400」と回答する児童が一定数みられ、問題文の数量を単純に用いて、「200+200」の計算結果を回答したと考えられます。

この問題は全国的にも正答率が約5割程度と低く、速さなどの単位量当たりの大きさの意味や表し方についての理解に課題がみられました。

【正答】200



POINT

◇「速さ」の理解を深めるためには、「道のり」や「時間」の二つの数量の関係を表に表し、「速さ」が変わらないとき、二つの数量の関係が比例の関係にあることを確認できるようにする。

時間(分)	1	2	3	4	5
道のり(m)	200	400	600	800	1000
速さ	分速200m	分速200m	分速200m	分速200m	分速200m

表にすると、速さが変わらないとき、「道のり」は「時間」に比例していることが理解しやすい！！

国語（中学校）

※令和6年度全国学力・学習状況調査問題より抜粋。紙面の都合上、調査問題の一部を変更、修正しています。

◇◇できているところ◇◇（全国との比較）

○資料を用いて、自分の考えがわかりやすく伝わるように話すこと

○表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること

★★今後伸ばしたいところ★★

文章と図とを結びつけ、その関係を踏まえて内容を解釈すること

- 1 実際の葉の形をたくさん思い浮かべることができるよう補助する役割。
- 2 実際の葉の形とそれを表す言葉とを結び付けて捉えられるようにする役割。
- 3 葉の形を表す言葉を二つのグループに分けるやり方が複数あることを示す役割。
- 4 葉の形を表す言葉の中では厚み方向の形容が限定的であることの根拠を示す役割。

【正答】
1・2



「図 さまざまな形の葉」の本文中での役割を説明したものとして適切なものを、次の1から4までのの中から二つ選びなさい。

一口に植物といっても、世の中には多種多様なものがあります。木でも草でもよいのですが、その好きなものを片端から思い浮かべて、それぞれの葉の形を一言で表してみてください。どのような言葉がでてくるでしょうか。

「楕円形の」「薄い」「先のとがった」「平べったい」「丸い」「細かく裂けた」「細長い」「ギザギザのある」「厚ぼったい」「針のような」「手のひらのような」……。それこそさまざまな形容があるでしょう（図）。

では次に、これらの言葉を二つのグループに分けるとしたら、どのように分けられるでしょうか。もちろん、言葉を二つのグループに分けるやり方はいろいろあるので、何が正解、ということはありません。自由に考えてみてください。（略）



図 さまざまな形の葉

【中学校】2 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。
（園池公毅『植物の形には意味がある』による。）

正答である1，2をとともに回答できた生徒は少なく、「図 さまざまな形の葉」が、読み手が実際の葉の形をたくさん思い浮かべたり、実際の葉の形とそれを表す言葉とを結び付けられたりする際に、その関係を踏まえて内容を解釈することに課題がみられました。



POINT

- ◇内容を解釈するためには、それぞれどの部分とどの部分とが関連しているかを確認し、書き手の伝えたい内容をより正確に読み取る。
- ◇図表などを示すことで文章にどのような効果が生まれているのかを考える。

◇◇できているところ◇◇（全国との比較）

- 問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができる
- 与えられたデータから最頻値を求めること

★★今後伸ばしたいところ★★

複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較する

【中学校】7 海斗さんと咲希さんは、プログラムによって走らせることのできる車型ロボットを使って実験をしました。

【車型ロボットの説明】

- 障害物からの距離を測定できるセンサーがついている。
- プログラムの⑦、⑧に値を入れることによって、車型ロボットの速さと、障害物からの距離を設定し、車型ロボットの動きを止めることができる。
- ⑦は、速さとして最も遅い段階1から最も速い段階5まで設定できる。
- ⑧は、距離として3～500cm まで設定できる。

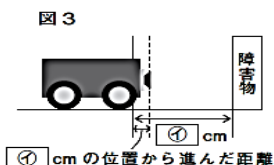
（3）二人は、次のプログラムを見て、話しています。

プログラム

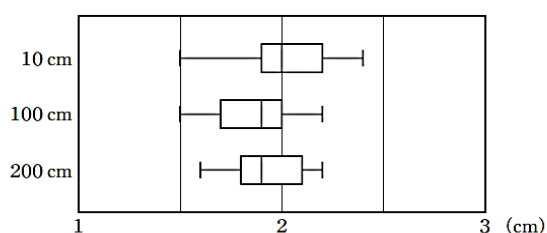
段階 ⑦ の速さで前に進む → 障害物からの距離が ⑧ cmより小さいことを感知する → 止まる

海斗さん「速さを段階1にして、距離を変えると、設定した位置から進んだ距離はどうなるかな。」
咲希さん「設定した位置から進んだ距離の分布の傾向が変わるかもしれないよ。」
海斗さん「距離 ⑧ の値を10より大きくしてみよう。」

海斗さんは、速さの段階を1に設定して、障害物からの距離 ⑧ cmの設定を変えたとき、次の図3の ⑧ cmの位置から進んだ距離がどうなるか調べることにしました。そこで、⑧ の設定をすでに調べた10 cmのほか、新たに100 cm、200 cmにして、それぞれ20回ずつ調べてデータを集めました。そして、データの分布の傾向を比較するために、箱ひげ図に表しました。



設定した位置から進んだ距離の分布



	設定した位置から進んだ距離 (cm)				
	最小値	第1四分位数	中央値	第3四分位数	最大値
10 cm	1.5	1.9	2.0	2.2	2.4
100 cm	1.5	1.7	1.9	2.0	2.2
200 cm	1.6	1.8	1.9	2.1	2.2

段階1の速さで、障害物からの距離を10 cm、100 cm、200 cmと長くしていくと、四分位範囲はどうなりますか。

設定した位置から進んだ距離の分布から読み取り、正しいものを下のアからオまでの中から1つ選びなさい。

- ア 四分位範囲はだんだん大きくなる。
- イ 四分位範囲はだんだん小さくなる。
- ウ 四分位範囲は大きくなって、小さくなる。
- エ 四分位範囲は小さくなって、大きくなる。
- オ 四分位範囲は変わらない。

【正答】

オ

イを選択した生徒が多く見られ「四分位範囲」と「範囲」を混同していると考えられます。また、複数の集団のデータの分布から、第1四分位数や第3四分位数に着目し、エを回答した生徒もみられました。



POINT

◇箱ひげ図の箱の位置などに関連付けてデータの分布の傾向について考察し、四分位範囲の必要性和意味について理解する。

◇データの収集や分析の方法は適切か、結論は妥当かなど、批判的に考察・判断する。

生活や学習のようすに関する児童・生徒質問紙調査結果から

全国の平均と比べたときの差

「☆☆」…良好 「☆」…やや良好 「□」…ほぼ同じ 「★」…やや課題 「★★」…課題

◇自分を肯定的に捉えている児童生徒が多く、特に「当てはまる」と回答した割合は、全国と比較して7ポイント以上高い結果となりました。要因の一つとして、教師がよいところを認めていることが結果から考えられます。

◇将来の夢や目標を持っている児童が多く、「困っている人を助けたい」と回答する児童生徒は9割以上と大変多く、思いやりの心が育っています。

◇平日1時間以上、休日2時間以上勉強している児童生徒の割合がともに全国を下回っており、特に小学校では顕著な表れがみられました。

◇平日2時間以上、SNSや動画視聴をしている児童生徒の割合は、全国を大きく上回っています。長時間の動画視聴等は視力低下や健康面への影響を与える場合があります。中には学習への利用もあるかもしれませんが、時間を決めて適切に使用する調整力が求められます。

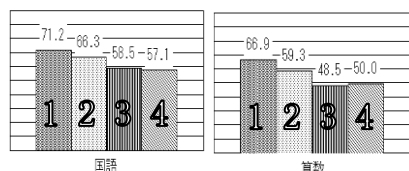
質 問 内 容	小学校6年生	中学校3年生
自分には、よいところがあると思う	□	☆☆
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う	☆	☆☆
将来の夢や目標を持っている	☆	□
人が困っているときは、進んで助けている	☆	☆
平日の学習時間(1時間以上)	★★	□
休日の学習時間(2時間以上)	★★	★
平日のテレビゲーム(PC、携帯電話やスマートフォンを使ったゲーム含む)時間(2時間以上)	★★	★★
平日の携帯電話やスマートフォンでのSNSや動画視聴時間(2時間以上)	★	★★
【個別最適な学び】 昨年度までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた	□	☆☆
【協働的な学び】 友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいた	☆	☆
【主体的・対話的で深い学び】 昨年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた	☆	☆

学習指導要領の趣旨を踏まえた取組

【小学校】

◇「個別最適な学び」を自覚している児童ほど、各教科の正答率が高い傾向がみられました。

【質問】授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていたかの選択肢と教科の正答率のクロス集計

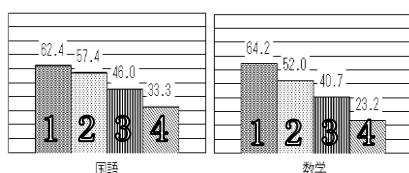


1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない

【中学校】

◇「主体的・対話的で深い学び」に取り組んだと考える生徒ほど、各教科の正答率が高い結果となりました。

【質問】課題の解決に向けて自分から取り組んだ選択肢と教科の正答率のクロス集計



1 当てはまる
2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない

ICT 機器の活用

◇授業で ICT 機器を「ほぼ毎日」「週3回以上」活用したと回答した児童生徒の割合は、全国と比較して2割以上高い結果となりました。

◇約9割の児童生徒が、以下のような ICT 機器利用の効果を感じていると回答しました。

- ・自分のペースで理解しながら学習をすすめることができる
- ・分からないことがあった時に、すぐ調べることができる
- ・楽しみながら学習を進めることができる
- ・画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる
- ・友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる
- ・友達と協力しながら学習を進めることができる